

三見地区にまつわるストーリー

三見の由来

律令時代、三見は佐美郷として美祿郡に属していました。平成3年(1991)、美祿郡美東町(現在美祿市)の長登銅山遺跡で出土した天平3年(731)の木簡に「佐美郷」の名があり、当時三見が美祿郡下の一郷であったことが明らかになりました。

また、壇の浦の戦いで敗れた平家の武将、三位中将平重衡が安徳天皇を守って船で逃れて坂井浜に上陸したという故事があり、武将の位、三位(さんみ)に因んで三見と呼ぶようになったともいわれています。

長登銅山出土の木簡
(美祿市長登銅山文化交流館提供)

三見の伝統芸能

神楽舞

秋の収穫を終えると、八幡宮と各地区の鎮守社では、収穫の感謝祭が行われ、五穀豊穡を祈る神楽舞も奉納されてきました。現在も手水川地区(11月)と床並地区(12月)で続いています。



三見の盆踊りエーサ節

エーサ節は、三見地区に200年以上も古くから伝わっている盆踊りの唄です。昭和56年(1981)、各地区の盆踊りを三見全体で統一し、毎年8月16日に三見盆踊り大会として小中学校運動場を会場として踊り継がれています。



鶏闘楽

江戸時代から引き継がれている腰輪念仏踊(現在、鶏闘楽)が秋季祭に奉納されていました。名前は踊りと衣装の形に由来しています。金峯神社では平成22年(2010)を最後に中断しています。



赤間関街道の宿駅として発展した三見市

三見市は寛文5年(1665)に赤間関街道の宿駅に取り立てられ、萩城下に近い宿駅のひとつとして人や馬を取り継ぎ、宿や食糧を提供していました。現在も旧街道に沿って軒を連ねる家々が建ち、高札場や目代所の跡、葉問屋を営んだ家などが残されています。

9 観音堂

8 元仁王堂の鬼瓦

7 三見市仁王像

6 色雲寺(元本陣)

5 復元御高札場

4 三見郵便局 発祥の地

3 目代所(駅)跡

2 元葉問屋三島屋

1 善照寺(元脇本陣)

旧宿駅 三見市スポット

おすすめトレイル

至手水川・木間

三見郵便局は、明治8年(1875)1月旧宿駅三見市中央の阿武平十郎宅で開業

お殿様のお休み所

4 三見郵便局発祥の地

5 復元御高札場

至長門市

3 目代所(駅)跡

至萩市内

6 色雲寺(元本陣)

7 三見市仁王像

8 元仁王堂の鬼瓦

第6代藩主毛利宗広公の抱瘡を治した仁王様。お歳はびっくり500歳ともいわれている。

お殿様の抱瘡を治したおれに、御堂を瓦葺とし毛利家の家紋を許し寄進

大衆が守るべき幕府のお触書「親に孝行せよ」など8枚が掲示してある。

三見市には荷物や人を運ぶ馬(伝馬)31疋が常備。目代(駅長)は、旅人に伝馬を手配した。

天正9年(1581)創建の古い寺院。門前の大きな六足石灯籠は一見の価値あり。

幕末明治期の葉問屋。漢方処方書などのおたから所蔵

三見市には荷物や人を運ぶ馬(伝馬)31疋が常備。目代(駅長)は、旅人に伝馬を手配した。

※鬼瓦は仁王会館内に展示しています。見学は三見公民館へご相談下さい。

三見の自然

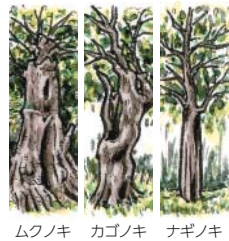
シーボルトコギセル

シーボルトが発見した巻貝で、形がキセル(煙管)に似ていることから、この名が付けられました。三田八幡宮の樹木などに生息しています。



三田八幡宮の保存樹木

三田八幡宮の宮木として大切に保護されてきた、3種類の樹木があり、幹周りはムクノキ1本5.5m、カゴノキ1本2.5m、ナギノキ3本1.8~2.3mです。(萩市指定保存樹木)



吉広のバクチノキ

バクチノキとしては県内最大の大樹で、木の成長とともに樹皮が剥がれ黄褐色になり、これを、博打の敗者が身ぐるみ剥がされる様子になぞらえてこの名がついたといわれています。(山口県指定天然記念物)



施設のご案内

道の駅さんさん三見

新鮮で、安心・安全な野菜や果物、海産物の加工食品などの食材が豊富です。北長門海岸国定公園の絶景が眺望できるレストランで、海・里の幸を提供します。



住所: 山口県萩市三見1028-2 TEL: 0838-27-0041
時間: 9:00~17:00 ※レストラン 鯛島食堂 11:00~15:00
定休日: 年末年始

道の駅のオススメ

食事・特産品



三見公民館

三見の情報はここで入手できます。正面にある陶壁画が目印です。三見の発展を願い制作。作者は萩焼作家、坂達雄さん(後の第12代萩高麗左衛門)です。



住所: 山口県萩市三見2393 TEL: 0838-27-0004
時間: 8:30~17:15
※土日とも図書室とトイレの利用が出来ます。窓口対応は平日のみです。

三見 季節暦

※食の時期はおおよその旬を表しています。(旬は三見お宝実行委員会調べ)

	春	夏	秋	冬	
食	ヒジキ	モズク(4-6)	イサキ(3-6)	イトヨリ(9-12)	
	メバル(1-5)	ケンサキイカ(4-11)	マダイ	メバル	
	瀬つきあじ(マアジ)(4-8)	ケンタロウ・ドクゴロ(8-10)	マダイ	マダイ(11-4)	
	マダイ	アマガイ(5-9)	ブリ(10-2)		
	マフグ(2-4)	アカミズ(キジハカ)(6-9)	マフグ		
	700コー	たまげなす(4月下旬-6月中旬)	プロッコリー(11-3)		
		ピワ(5月中旬-6月)	西条柿(9月下旬-10月中旬)		
			たまねぎ(5-1)		
	花	サクラ	アジサイ	彼岸花	スイセン
		しゃくばけ	ツツフキ		
祭り・イベント	港祭り(瀬代通り)(5/5)	三見びわ収穫祭(道の駅)(6月)	さんさん三見のお宝体験(6月)	さんさん三見のお宝体験(12月)	
		盆踊(エーサ節)(8/16)	地蔵盆(8/24)	秋の収穫祭(道の駅)(10月)	
			三田八幡宮秋季祭・子供相撲(10/17)	神楽舞(手水川・床並)	
				三見市(萩)のどんと焼き(1月)	

ガイドのご案内 三位ふるさと史の会

時間/ご希望の時間にご案内します。
申込/三見公民館へ電話でお申込みください。
電話0838-27-0004(月~金:17時まで)

H29.3 現在

編集発行 三見お宝実行委員会
萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会

平成28年度文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産を活かした地域活性化事業) 文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

萩まちあるきマップ

三見地区 おたからマップ



三見は萩市の西端に位置します。三見の中央は沖積層平野で、その三方は山々に囲まれて、北面の海岸線は日本海に広がる半農半漁の自然豊かな地域です。

三見が開けるのは江戸時代で、萩城下町から赤間関(下関)へ通ずる赤間関街道北浦道筋沿いに発展した宿駅三見市が発端です。

現在も、当時の町並み、目代所(駅)跡、御高札場跡、元葉問屋など往時の史跡のおたからが残っています。

一方、中央に流れる三見川をさかのぼれば、三田八幡宮の巨木、珍種の陸貝、公民館の萩焼陶壁画、吉広のバクチノキ、床並の三見橋(眼鏡橋)など多様なおたからと出会うことができます。

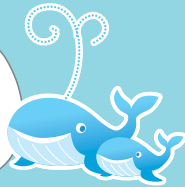
東西を横切る赤間関街道沿いと、南北に流れる三見川沿いに点在する自然、歴史、文化の佇まいを感じながら散策してみませんか。



このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは萩データベースでチェック!! machihaku.city.hagi.lg.jp/db/

三見おたからマップ

壁と呼ばれるこの2つの岩が昔はクジラの見張り場であった。



道の駅 萩・さんさん三見からの眺め

約7万年前に噴火 (阿武火山群) 約1億年前の堆積岩 約21万年前に噴火 (阿武火山群)



約200万~1万年前に活動した阿武火山群の火山が見える

三見橋 (通称眼鏡橋)

県下最大級の石橋です。深い谷を渡すためのアーチ橋で、同様の橋が九州地方で江戸~大正時代にかけ多く造られました。基礎には、建造当時としては珍しいコンクリートが使われています。周辺は地元の手作りで整備されています。石橋とアジサイと緑の山のコントラストが美しい6月頃の風景が特におすすめです。



国登録有形文化財
建設年月: 大正3年(1914) 2月
大きさ: 長さ21.4m, 幅員3.4m, 径間16.4m
水面からの高さ13.5m
アーチの道石: 砂岩, 545個

道の駅萩・さんさん三見から三見橋までのアクセス図 (約4km)



かつて三見は、街道や海を通じて萩城下に農産物や薪などを供給していました。今も工夫を重ねながら様々な野菜や果物が作られています。



- 凡例
- トイレ
 - 車イス対応トイレ
 - 駐車場
 - 電気自動車 (EV) 充電器
 - バス停
 - 大地の見どころ (萩ジオパーク構想)
 - お地蔵様
 - 山陰道 萩・三隅道路
 - 赤間関街道北浦道筋 (歩行可能道路)
 - 赤間関街道 (歩行不能道路)
 - その他の道路

約1億年前の堆積岩に石英斑岩が貫入 (馬の背に似た「馬ヶ瀬」、湾に似た「赤濱」)



約1億年前にできた堆積岩。礫岩と砂岩が交互に堆積した様子が幕のよう。

幕末、旅人に大変好評であった素焼きの箕ノ越焼人形。中国の伝説上の仙人などがモチーフになっている。



各集落で大車にされるお地蔵様。8/24の地蔵盆・地蔵祭りでの地元の皆さんによるおせたいも盛ん。



おすすめトレイル 赤間関街道トレイルin三見・玉江坂 (歩きコース) 約4.2km

- 1 床並吉里塚 (復元)
- 2 三見橋 (通称眼鏡橋)
- 3 中山三辻の箕ノ越焼窯跡
- 4 中山引地の御米蔵跡
- 5 中山文道坂下の兄弟地蔵
- 6 玉江坂
- 7 玉江坂御駕籠建場跡



萩城下から赤間関(下関)へ通する赤間関街道北浦道筋全行程は21里28町。このうち、三見地区の約1里(約4km)を、散策してみませんか。
※⑥、⑦の見学は三見公民館へご相談下さい。
※歩行不能区間については別図があります。



明神社は航海安全の神、海神社は竜宮・海の幸の神

昭和元年(1926)の洋風建築。屋根を支える構造が三角形を組み合わせたものになっている。

赤間関街道北浦道筋の萩城下より2つ目の吉里塚。萩層樋の札場から2里16町(約10km)

水無の棚田は、空を見上げるような高い所にあり、空の棚田と呼ばれている。

森様の大フジと親しまれ、茎周り85cm。長い房状の白い花が咲く。

山がちな地形と温暖な気候を生かして甘いピワを栽培

滝がお好きな滝見観音。本尊は萩藩御用絵師雲谷等益の作と伝えられ、板に描かれた御絵像が安置されている。

畑の奥山を削って耕地を造成した時の石組の暗渠が残る。

大正初期建設。現国道下の手水川川の石組暗渠。長さ10m・高さ4.1m・幅2.7m

元蔵王権現宮。大和国金峯山より勧請。明治2年(1869)頃金峯神社に改称した。

推古19年(611)創建と伝わる。光圓寺・善照寺・色雲寺の起源寺である。

旧名三見八幡宮は往古山州八幡(京都石清水八幡)より勧請したと伝わっています。文和元年(1352)大井八幡宮文書に「三見郷八幡宮」と記され、当時から三見郷(三見地区・山田地区)の氏神でした。昭和22年(1947)三見の「三」と山田の「田」をとって「三田八幡宮」と改称しました。

